

[教室紹介](#)[各部門紹介](#)[研究紹介](#)[業績紹介](#)[教育・医局員募集](#)[お問い合わせ](#)

教授・医局長挨拶

[HOMEに戻る](#)

医局長挨拶

神戸大学医学部附属病院では年間約8500件の手術が行われ、そのうち約6000件が麻酔科により管理されています。手術症例は多岐にわたりまた病院の特性で重症例が多いことが特徴です。術後、多くの症例が集中治療室に入室しそこでも重症例については主治医と伴に集中治療医による管理が行われます。集中治療部で勤務する医師も当教室より派遣されているため、術前から術後に至までを総合的に管理・研修できると考えます。またペインクリニックでは外来で通常の疼痛治療はもちろん、特殊ブロック、脊髄刺激療法などが積極的に行われています。このように当教室では麻酔、集中治療、ペインクリニックに関与し幅広い医療を実践しています。

研究について、当教室は急性肺障害の薬物を始めとする治療について研究を行ってきました。現在は、臨床研究を中心に展開しています。一例を挙げますと、当院の特徴の1つでもある豊富な心臓血管外科手術症例をもとに循環作動薬の影響、腎機能に関する研究（血液浄化療法も含む）などに取り組んでいます。日常の臨床で生じた疑問点などはそのままにせず、必要ならば臨床研究を行い解決するように努力しています。これらの研究が明日の臨床に役立つことを夢み研究活動に取り組んでいます。

高齢化に伴い手術を必要とする症例が年々増加傾向にあり、手術室での麻酔科医の診療活動の必要性が増えています。私達はこのような状況において、質の高い周術期管理を提供するために日々研鑽しています。

平成26年3月

神戸大学大学院医学研究科 外科系講座 麻酔科学分野 医局長
出田 眞一郎



医局長：出田 眞一郎